

平成18年1月学術講習会

(社)日本鍼灸師会
(社)東京都鍼灸師会

主催

厚生労働省後援 通算 649 回
(2006.1.22)

演題および講師

プライマリ・ケア診察編

「胸部・腹部・背部の診察」

視診・触診・打診・聴診

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科

医歯学教育システム研究センター 教授 奈良 信雄

プライマリ・ケア鍼灸編

「悪性疾患及び難治性疾患と鍼灸臨床」

鑑別法とインフォームドコンセント

東京衛生学園 臨床教育専攻科 講師 小川 卓良

「胸部・腹部・背部の診察」

視診・触診・打診・聴診

奈良 信雄

1. プライマリ・ケア実践のための診察

いわゆるコモン・ディゼーズ (common disease) を対象とするプライマリ・ケアを実践するに当たり、もっとも重要なことは、患者さんの愁訴をよく聞き、その上で適切な診察を行って身体所見の異常を把握することである。ほとんどのコモン・ディゼーズは医療面接と身体診察によって診断できる。その上で、適切な処置を行うようにする。

身体診察では、まずバイタルサイン (意識レベル、体温、呼吸、脈拍、血圧)

を把握し、ついで体格や体型、顔貌、皮膚などの全身所見を観察する。そして、頭頸部、胸部、背部、腹部、四肢、神経系へと診察を進める。

2．胸部診察

胸部の診察は、とくに心臓、肺の疾病を診断するのに重要である。

視診：胸郭（形状、呼吸運動）、乳房、心尖部（心尖拍動）

触診：心尖部（心尖拍動）、前胸部（振戦）、両肺野（声音振盪）、乳房（腫瘤）

打診：右肺下部（肺肝境界の決定）、心（心濁音界の確認）、両肺野（打診音）

聴診：心（心音、心雑音）、両肺野（呼吸音、副雑音）

3．背部診察

背部の診察は、とくに肺および脊柱の疾病を診断するのに重要である。

視診：胸郭（形状）、脊柱（形状）

触診：脊柱（形状）、両肺野（声音振盪）

打診：両肺野（打診音）

聴診：両肺野（呼吸音、副雑音）

4．腹部診察

腹部の診察は消化器系の疾患の診断に重要である。

視診：外形、皮膚、腹壁静脈、臍、呼吸運動、蠕動運動、拍動

聴診：腸雑音

触診：腹部全体（腹壁の緊張、限局性の抵抗、腫瘤）、肝臓（右肋骨弓下）、胆嚢（Courvoisier 徴候）、脾臓（左肋骨弓下）、腎臓（双手診で浮球感）、腸（糞塊、腫瘤）

打診：ガスのたまり具合

◆参考資料：

- 1) 福井次矢、奈良信雄編 :内科診断学、医学書院、2000 年
- 2) 奈良信雄編 臨床研修実践マニュアル、南江堂、2004 年
- 3) 奈良信雄編 臨床研修イラストレイテッド1～3巻、羊土社 2004 年
- 4) 奈良信雄編 :身体所見のとり方、羊土社、2003 年

「悪性疾患及び難治性疾患と鍼灸臨床」

鑑別法とインフォームドコンセント

小川 卓良

1、はじめに

一昨年は癌の鑑別法を中心にお話をさせて頂き、昨年は21世紀の三大疾患と私が注目している、「癌」、「鬱病」、「糖尿病」の診断・鑑別から治療までの概略をお話しさせて頂いた。本年は癌の鑑別法については過去二回本席でお話しさせて頂いているし、医道の日本誌にも連載させて頂いているので今回は省略し、癌を除いた悪性及び難治性疾患の鑑別法と、癌を含むそれらの疾患の対応についてお話しさせて頂いた。

2、悪性及び難治性疾患の鑑別の意義

鍼灸院に来院する患者の約2/3は医師の診察を経ているが、1/3は未診察である。また、医師の診察を経ている、医療の細分化という構造的な問題から適切な診療科で受診してないか、原因が症状発現部位にない場合には見逃されているケースも非常に多い。また、CTやMRなどを持たない一般開業医での診断には「保険請求のための便宜上の診断名」や「いわゆるバスケット・ネームとしての不明瞭な診断名」がついている場合も非常に多い。

実際に鬱病は半分以上が医師の診療の中で見逃されているという現実があり、糖尿病においても現在の主訴と糖尿病との関連が見逃されていて、糖尿病を見逃しているケースも少なくないし、仮に診断されていても関係がないと処理されているケースも多い。

以上の理由から、あらゆる疾患・症状に関して鍼灸師自らが診断・鑑別していかなければ、病態の本質を見逃してしまうケースは実際には非常に多いのである。

3、悪性及び難治性疾患（良性の難治性を含む）の鑑別

鑑別・診断は初診時で行えればベストであるけれども、初診時は見逃すケース

も多く、経過観察で鑑別できるケースも少なくない。経過観察で判断する場合には、良性ではあるが難治なケースを含めて診断する必要がある。単に「鍼灸治療で良くならない＝悪性」ということではないからである。

1) 初診時の鑑別

悪性疾患 糖尿病 鬱病 神経症 その他の疾患

2) 経過観察における鑑別

良性疾患で難治な場合 悪性疾患 難治性疾患 その他の疾患

4、悪性及び難治性疾患での鍼灸師の対応・インフォームドコンセント

悪性疾患＝鍼灸不適応とはならない。それは、全ての医療の中で鍼灸治療以上に有効・有用な治療がなければ、鍼灸治療で治すことが難しくとも同等ならば適応となる。そのことを確認するには他の医療（特に西洋医学）の治療成績を知る必要があるし、鍼灸治療の有効性・有用性を知る必要がある。それらの情報を患者さんに与えた上でその判断に委ねることが重要である（インフォームドコンセント）。

1) 鍼灸治療に不適応はあるのか

不適応の定義

鍼灸臨床の現場での不適応

インフォームドコンセントの真の意義と鍼灸臨床

2) 悪性疾患での鍼灸師の対応・インフォームドコンセント

西洋医学での臨床の実態

鍼灸治療の有効性・有用性

悪性疾患での鍼灸師の対応・インフォームドコンセント

3) 難治性疾患での鍼灸師の対応・インフォームドコンセント

西洋医学での臨床の実態

鍼灸治療の有効性・有用性

難治性疾患での鍼灸師の対応・インフォームドコンセント